

「教会と天皇制」
を考える特別委員会
連続講座第2回

「広島からキリスト教会の 戦争協力、被爆、平和について考える」

発題者: 向井希夫さん

(広島流川教会牧師・元大阪教区総会議長)

1945年8月6日、広島流川教会、そして広島市内の教会は被爆しました。しかし、「8.6」は突然来たのではなく、その時へと至る歩みがありました。わずかに残された戦前の週報を見ると、「国民儀礼」、「金属回収運動に協力しましょう」、「聖戦必勝祈祷報告会開催さる」等の記述が見られます。

被爆、敗戦、戦後の歩みの中で、教会は、本当の意味で歴史と向き合うことができたのでしょうか。その上で平和への歩みを始めることができているのでしょうか。皆さまといっしょに考えることができればと思います。

関連して、わたし自身が11年間大阪教区議長を務めさせていただいたとき、「本当の意味で歴史と向き合うことができたの」かについても大阪教区の皆さまと考えることができれば幸いです。

2024年8月15日(木) 17:30-19:30

会場：日本キリスト教団東梅田教会

参加方法：対面およびオンライン(zoom)

zoom参加される方は「教会と天皇制」を考える特別委員会の山下壮起委員長に下記のメールアドレスにお申し込みください。

アドレス：uccj.osaka.2.11@gmail.com

締切：8/14(水)まで

主催：「教会と天皇制」を考える特別委員会